

東日本大震災復興対策本部会合資料

# ～復興・創生の実現に向けて～



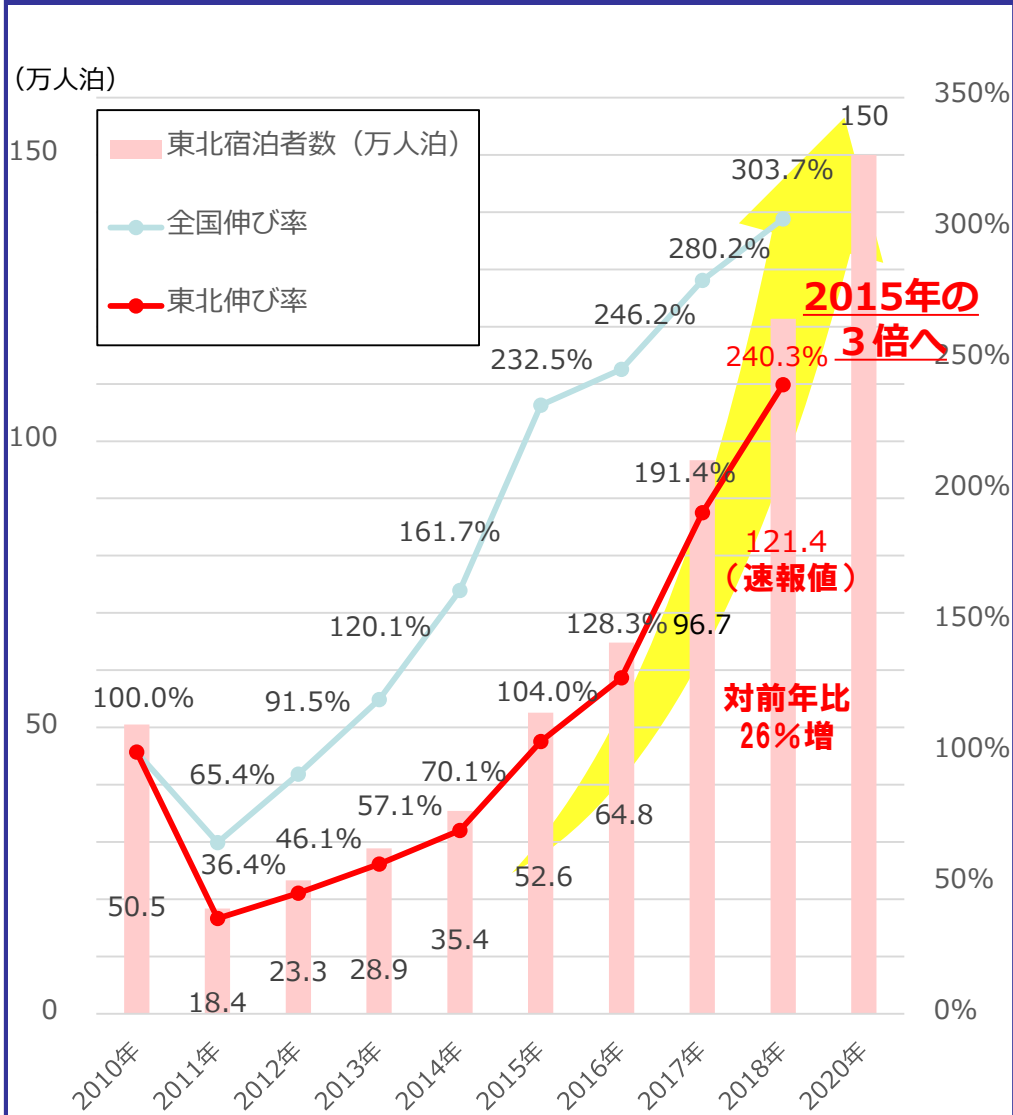
1. 東北における観光復興の取組
2. 鉄道の復旧状況
3. 被災地における生活交通の確保
4. 造船業の復興
5. 三陸沿岸地域における復興イベントの開催

平成31年3月8日

東北運輸局

# 1. 東北における観光復興の取組

## 訪日外国人旅行者数の現状と観光ビジョン目標



※従業員数10人以上の施設における延べ宿泊者数 (出典：観光庁宿泊旅行統計)

## インバウンド施策の主な取組

### ▶台湾「日本東北遊楽日2018」 (H30.12.14~16)

台湾の一般消費者向けPRイベント  
来場者数：3日間合計 134,997名  
(過去最高)



イベントシンボル「希望の芽」

### ▶日本三大樹氷のブランド化

蔵王山・八甲田山・森吉山を広域の樹氷エリアとしてブランド化を図り、魅力を発信



メディア招請、多言語パンフレット作成



国際樹氷サミットの開催 (青森市)

### ▶観光案内所スタッフのスキル強化

東北地域の外国人観光客への案内スキル強化のため、観光案内所スタッフ同士による現地研修や語学接遇講座を実施



中国人講師を招いた語学接遇講座

### ▶東北への国際定期便の誘致

東北一体となった仙台国際空港への国際定期便の誘致に向け、4月に推進体制を構築 (予定)



仙台国際空港

# 2. 鉄道の復旧状況

- 東日本大震災で被災した鉄道について、順次、復旧が進捗し、現在運休中の路線は、2路線：76.2km  
(※ 震災10日後：25路線：2,530km)

## 山田線の運転再開に向けた動き

- 平成31年1月31日 事業構造の変更(上下分離)、活性化施策、三陸鉄道が運行するにあたり必要な鉄道事業許可を含めた鉄道事業再構築実施計画を認定  
➤ 運転再開に向け訓練運転実施中



【JR山田線(宮古・釜石間)】55.4km  
⇒三陸鉄道へ運営移管  
(三陸鉄道リアス線)

・平成31年3月23日に運転再開

※復旧後、本年6月には「三陸防災復興プロジェクト2019」が沿線各駅において、9月には「ラグビーワールドカップ」が釜石鶴住居復興スタジアムにおいて開催予定

【JR常磐線(浪江・富岡間)】20.8km

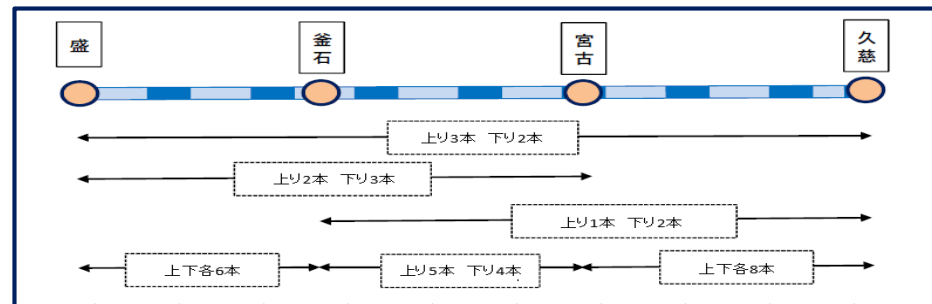
・来年度末までの開通を目指す

【JR常磐線(木戸・広野間)】

・本年4月20日のJヴィレッジグランドオープンに合わせて、木戸・広野間にJヴィレッジ駅を開業予定。



工事を進めるJヴィレッジ駅



運行ダイヤの概要(平成30年12月三陸鉄道発表)



第34伊川橋りょう上を運行する訓練運転車両



防災集団移転促進事業にあわせ移設した織笠駅

## 運転再開に合わせた新駅設置



短大・団地が立地する八木沢地区に新設する「八木沢・宮古短大駅」



住宅の造進が進む弘川地区に新設する「弘川駅」

# 3. 被災地における生活交通の確保

- 復興事業や避難指示解除等により変化する被災地の移動ニーズに柔軟に対応するため、バス交通や乗合タクシー等の運行を支援〔地域公共交通確保維持改善事業（被災地特例）〕  
→復興が進むにつれ、仮設住宅の解消等により、**補助対象となる系統数や市町村数は減少**
- 復旧・復興が進むことによりまちづくりが進展していくにつれ、被災地域では**地域公共交通網形成計画の策定も進んでいる**

## ○地域公共交通確保維持改善事業(被災地特例)の適用状況

### ◆ 地域間輸送（被災地域地域間幹線系統確保維持事業）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
系統数	126	67	67	61
補助金額 (単位:百万円)	811	483	456	468

## ○地域公共交通網形成計画策定状況(被災地域)

	策定済	策定中・予定
岩手県	3	6
宮城県	4	2
福島県	3	1

(平成31年1月末日現在)

### ◆ 地域内輸送（特定被災地域公共交通調査事業）

(補助金額の単位:百万円)

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
岩手県	市町村数	10	7	6	6
	補助金額	346	255	242	186
宮城県	市町村数	10	9	7	6
	補助金額	360	332	251	215
福島県	市町村数	12	11	9	7
	補助金額	318	276	194	168
合計	市町村数	32	27	22	19
	補助金額	1024	863	687	569



仮設住宅を回る地域内バス



被災地を走る地域間バス

# 4. 造船業の復興

- 東北地域の基幹産業である水産業と地域経済・雇用を支える重要な産業であった造船業は、東日本大震災によりすべての施設が壊滅的に被災
- 本格的な復興が困難な事業者を支援するため、主に漁船の建造・修繕を行う中小造船・関連事業者が移転・集約化等により整備する共用造船施設・設備に対して、2/3を補助する制度を平成25年度に創設（東日本大震災復興特別会計より総額160億円で基金を造成（本省海事局において要求））

## 補助事業の実績

- 気仙沼市、石巻市、大船渡市及び南三陸町の22事業者（17造船事業者、5関連事業者）が造船業等復興支援事業費補助金を申請・認定（事業数8件、補助金総額113億円）
- 平成29年5月までに、(株)みらい造船（右記）を除く7事業が完了し、新たな造船所にて本格操業を開始



被災直後の鈴木造船所（石巻市）



新工場での新造一番船（平成31年1月）

## みらい造船事業

- 気仙沼市の4造船事業者及び3関連事業者が新会社「**（株）みらい造船**」を設立（平成27年5月1日）し、新造船所に集約
- 造船施設整備の総事業費は105.5億円（うち補助金70.3億円）
- 敷地は気仙沼市が復興交付金で造成（63.5億円）
- **本年5月末完工及び一部操業開始、7月移転完了、9月完成式典予定**



みらい造船建設現場  
（気仙沼市朝日町、平成31年1月現在）



# 5. 三陸沿岸地域における復興イベントの開催

## 三陸防災復興プロジェクト2019

### 東日本大震災からの復興を内外へ発信するため開催

会期：6月1日（土）～8月7日（水） 計68日間  
 会場：岩手県沿岸13市町村を中心に県内全域  
 事業：5つのテーマに沿って22の事業を実施

- ◆ 三陸鉄道(株)では、事業として
  - ・三陸プレミアムランチ列車
  - ・三陸縦断夜行列車
  - ・語り部列車 イベントを実施

- ◆ 川崎近海汽船(株)では、「三陸復興キャンペーン 宮古/室蘭航路開設一周年記念割引」（4/26～9/30まで）を実施



大沢橋りょう上を走行する三陸鉄道車両  
 (写真提供：三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会)

- 東北運輸局では、三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会の『総会』（局長）及び『協働・おもてなし専門部会』（岩手運輸支局）に参画し、協力

## ラグビーワールドカップ2019™釜石

### 東日本大震被災地で唯一の開催地

日程：9月25日（水）フィジー対ウルグアイ  
 10月13日（日）ナミビア対カナダ  
 会場：釜石鵜住居復興スタジアム（観客席数:16,000席）  
 〔最寄駅：三陸鉄道鵜住居駅〕



被災直後の鵜住居小学校  
 (出典：岩手県HP)



釜石鵜住居復興スタジアム  
 (写真提供：釜石市RWC2019推進本部事務局)

- 東北運輸局では、ラグビーワールドカップ2019釜石開催実行委員会の『総会』（局長）及び『交通輸送・宿泊専門部会』（岩手運輸支局）に参画
- 当該部会において、観客輸送等の詳細を定める「交通輸送実施計画」を作成中（今年度中策定予定）

→必要な手続や想定される問題点等について助言等を実施

### 三陸沿岸地域に対するインバウンド誘客支援

- 各イベントに訪れる外国人観光客への観光資源のアピール、**岩手県内周遊パス造成**など受入環境整備により、三陸沿岸地域さらには東北全体への周遊を促進
- 災害発生時の外国人観光客への対応（情報提供等）について、関係自治体・交通事業者・観光関係者等の取組を支援



沿岸地域の観光資源をアピール